

平成27年度校内研究計画

山梨市立山梨北中学校

1. 学校課題

(1) 教科における課題

平成26年度全国学力状況調査による本校の結果では、国語A問題での「書くこと」の領域は82, 1%と前年度よりも正答率が高くなっている。一方、国語B問題では、「書くこと」39, 7%, 「読むこと」45, 6%と前年度よりも低く、B問題では無解答率も増えている。数学では、A問題B問題とも「資料の活用」が低く、資料から必要な情報を読み取ることに課題があると考えられる。(A問題: 54, 8%, B問題: 57, 0%)。また、記述問題になると正答率が低くなる(45, 2%)とともに無解答率も30, 1%と高くなる。

また平成26年度山梨県学力把握調査において、国語では記述式が39, 7%と県の正答率と比較しても低いことがわかった。同様に、数学の記述式では38, 0%, 英語の記述式では52, 5%, 英語では「書くこと」の領域でも38, 4%とともに低い正答率になっている。無解答率も記述式の問題で高くなっている。

どちらの調査からも、本校の生徒は「考えて書くこと」に課題がある。そのため、学習活動においては思考させる場面を多く取り入れたり、思考力を高める活動を取り入れる必要があると考える。

(2) 生活習慣・学習習慣における課題

学習の基盤となる「生活習慣」「学習習慣」においては、規範意識や自尊感情などが全国・県の基準より高かった。しかし、テレビの視聴やスマホ等の使用時間が全国よりも高い割合になっている。家庭における学習時間も一定の時間の確保はできてきたが、2時間以上の学習時間を確保している生徒は全国に比べて低い状況にある。家庭での生活の見直し等自己を管理する力も育んでいきたい。

2. 研究主題

「確かな学力の向上をめざす学習指導に関する研究」

～思考活動の充実による授業改善～

3. 主題設定の理由

変化の激しいこれからの社会を担う子供たちにとって、その社会を生き抜く力、「生きる力」を育むことの重要性はさらに高まっている。学校教育においては、「生きる力」を支える「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和のとれた児童・生徒の育成を重視し、日々の教育活動を進めていくことが重要であるとする。なかでも学習活動においては、「確かな学力」を育成するために、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させること、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育むことの双方が重要であると述べられている。日々の学習活動を通じて、これらを確実に習得させバランスよく育むために、基盤となるのは「言語に関する能力」としている。このことは、国語科のみならず、各教科に通じる重要な視点である。

本校は、平成28年度までの3年間、山梨県教育委員会「授業改善プラン実践事業推進校」の指定を受け、確かな学力の向上と定着に向けての研究の機会をいただいた。昨年度は初年度として、「確かな学力の向上をめざす学習指導に関する研究」を研究主題とし、これまでの研究を生かしながら、「～言語活動の充実による授業改善～」に視点を当て、各教科において取り組んできた。

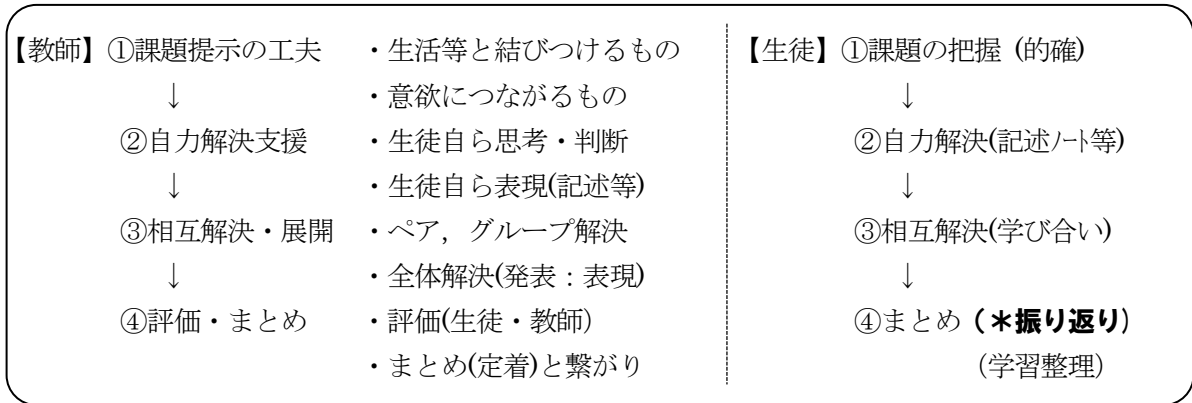
NRT調査・山梨県学力把握調査・全国学力学習状況調査の結果をもとに本校生徒の課題を見つけ、課題を克服するための計画を示した「授業改善プラン」の取組を実践した。また、学習過程についても、全教科共通の過程を目指した『山北スタイル』等を通して主題に迫るべく研究を進めた。

本年度は、昨年度の研究主題「～言語活動の充実による授業改善～」から「～思考活動の充実による授業改善～」とし、思考力を高めるための言語活動等を充実させ、確かな学力の向上を目指して、さらに研究を深めるべく取り組みたいと考えた。

*上記の「思考活動」とは、思考力を高めるための言語活動等

4. 研究の具体的取組内容と方法

(1) 授業形態の統一「山北スタイル」(思考力を高める授業形態)



*振り返りにおいては、各教科で「振り返りカード」を活用している。

(2) 基礎学力定着の取組

- ①自主学習ノートの作成
- ②スコラ手帳の活用 (書く習慣・時間を意識する習慣・考える習慣)
- ③朝学習 → 読書活動の定着, 「書くこと」の定着「作文」の実施
- ④山北サポートタイム → 基礎基本の定着, 年間10回実施

またこのほかに、定期テスト前には放課後「自学の時間」として質問を受けての指導や、自主学習をする時間を確保している。夏休みには、「夏季学習会」として、基礎学習や個別の課題を指導する時間を各学年・各教科で設けている。(H26年度は延べ57回実施)

(3) 教材教具の開発・工夫

- 授業改善に関わって、生徒の理解を支援する教材の開発と工夫。
- ・県教委の授業改善プランに関わる教材・教具の開発工夫。
- ・本校生徒が課題の多い単元の、教材・教具の開発・工夫。

(4) 教科に関わる掲示物の工夫

- ・学力向上につながるような、教材(図表・ポスター・授業関連資料等)の掲示, 話型の掲示
- ・教科・学年ごとに共通の教室掲示をしたり, 廊下, 特別教室等で実施。

(5) 授業改善プランを生かした研究実践

今年度も「数学」「理科」「英語」で「授業改善プラン公開授業研究会」を行う。またその他の教科では、プレ授業として、研究授業を行い、全員で参観し、全員で研究会を開きたいと考える。

年間校内研修計画

研究主任 丹澤 基予子

研究テーマ	教科領域等	担当者	学年	授業の時期	T・C要請
思考活動の充実による授業改善 「授業改善プランに基づいた教科授業」【数学】	数学	(未定)	2年	11/26 (木)	○
思考活動の充実による授業改善 「授業改善プランに基づいた教科授業」【理科】	理科	村田裕紀教諭	1年	11/26 (木)	○
思考活動の充実による授業改善 「授業改善プランに基づいた教科授業」【英語】	英語	(未定)	2年	11/26 (木)	○
思考活動の充実による授業改善 「初任者による研究授業」	理科	佐藤政幸教諭	2年	1月	○
思考活動の充実による授業改善 「初任者による研究授業」	国語	糠信恵理香教諭	1年	12月	○